

国際文化研究所紀要の発行に当たって

国際文化研究所長 平井 聖

国際文化研究所は、女性文化研究所および生活心理研究所とともに、本学の大学院生活機構研究科に付設された、三つの研究所の一つである。

生活機構学は、創設当初に研究科委員長福場博保教授が「われわれ人間生活の基本を作り、生活のスタイルを形成する衣食住の素材、機能の研究を深めると同時に、生活の在り方を哲学的、心理学的に考えたり、生活文化の歴史や外国の生活を分析的に研究する学問」、「新しい社会で最良の生活機構とは何か、その基礎から実践的提案までを総合的、学際的に研究する学問」と説明されたように、生活に立脚した視座を中心とする総合的な学問分野である。7年余たった今日では、極めてあいまいな生活の実態を調査して全体的に把握する学問分野や、調査や分析によって得られた結果を総合的に把握する、生活や生活の場の計画および設計にかかわる学問分野が、重要な研究分野の一つとして位置付けられるようになっている。

従来の研究は、福場委員長の前者の説明に尽くされているように分析的であったが、ごく最近の情勢では生活文化を対象とした研究は分析的な研究だけでは不十分となり、極めてあいまいな人間生活を、総合的な立場から研究する必

要が生じている。

様々な要素が複雑に絡みあっている人間の生活を、その影響関係の中で総合的にとらえることが、研究の向かうべき方向として今後次第に重要性を増していくことであろう。また、それらの結果を応用して、これからの生活の在り方について考え、方向を示し、生活そのものや生活を取り巻く環境を計画し設計することが、要求されている。

国際文化研究所は、このような研究分野をもつ大学院生活機構研究科に付属して、日本を含む世界各地の文化を、国際的な視座にたって、あるいは研究者の国際的連携のもとに研究することを目的に、平成4年（1992）5月に創設された。

国際文化研究所の構成は、歴史学、考古学、美術史学、建築史学、建築計画・都市計画の5部門で、これらの部門の幾つかが関係し、あるいは単独で、すでに幾つかの課題に取り組んでいるが、それらの主だったものは、エジプトで発掘された出土物に関する研究、中国・韓国・日本の生活文化の歴史的な視点にたった比較研究、ベトナムにおける町並保存に関する研究などである。

現在、国際文化研究所の中心的な課題は、ベ

トナムで国家的に保存が図られている木造建築の町並、ホイアンのチャンフー通を中心とした地区の保存事業に対して、調査や修復、そして活用に対する技術的な問題に、ベトナム側の技術者、研究者に協力し、技術移転や資金等について直接的・間接的に援助・協力することである。

ベトナム中部の町ホイアンに残る中国風の町並の保存、保存を前提としたホイアン住民の生活に対する提案を目的として、町並を形成する建物の調査、その町並に住む人々の生活調査、町の形成過程を知るための発掘調査をベトナム側の研究者や技術者達と共同で行い、その結果に基づいて家屋修理の計画を立て、実際の修理工事を通して具体的に修理技術の技術移転を図り、公有となっている家屋の利用計画を立て、あるいは今後より一層観光的に開発されるであろうこの町に暮らす人々の生活の将来に対して助言・提案を行うために、現状についての調査を行っている。

この調査・研究は、国際文化研究所の建築計画・都市計画の部門が中心となり、考古学等ほかの部門や他大学の研究者、及びベトナムの研究者・技術者達が協同して行っている。更に、この調査・研究には大学院の学生も参加していて、具体的な体験を通して、研究者としてあるいはより高度な技術者としての実践的な教育が行われている。

また、同じベトナムに於いて、栄養学的、疫学的なアドバイスをを行うことにも、国際文化研

究所はかかわっている。

平成4年度からおこなわれてきたベトナムにおける調査も回を重ね、ホイアンにおける対象地域の中心であるチャンフー通の家屋調査を終了したのを期に、国際文化研究所の紀要第1号を刊行することになった。

第1号は、これ迄の調査・研究のうち、調査の枠組及び調査事項の報告と、調査家屋の建物と生活の現状解析を中心に編集することになった。

考古学的な発掘は、伊万里焼の陶片が出土して注目を集めているが、学問的にはようやくその緒についたばかりで、これからの成果が期待されるところである。家屋等に関する古文書の収集も進み、その翻刻と解析は今後の重要な課題となっている。

ベトナムにかかわる研究は、以上のほかにも今後に待たなければならない分野も多いが、第一報として第1号を編集し、これ迄に明らかになったところを世に問い、御批判と御助言を請うこととした次第である。次の機会には、更に研究を重ね、充実した報告が出来る様努力すると共に、他の分野に関する成果も報告したいと考えている。

最後ではあるが、国際文化研究所の事業に対して、これまで御援助・御協力下さった企業ならびに個人の方々に、心からの感謝を申し上げますと共に、引き続いてこれまで以上の御援助・御協力と御教示を賜りますようお願い申し上げます次第である。